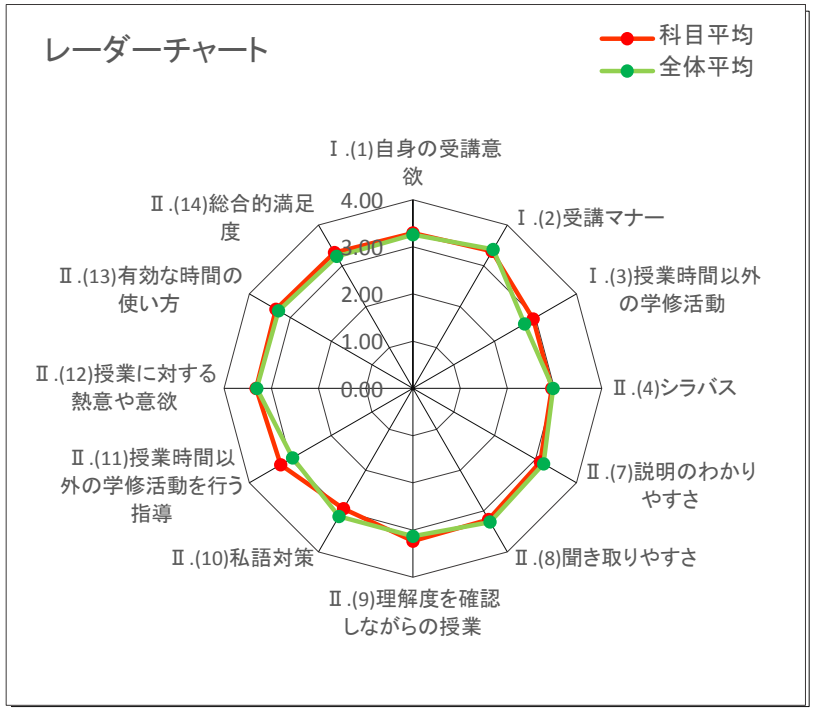
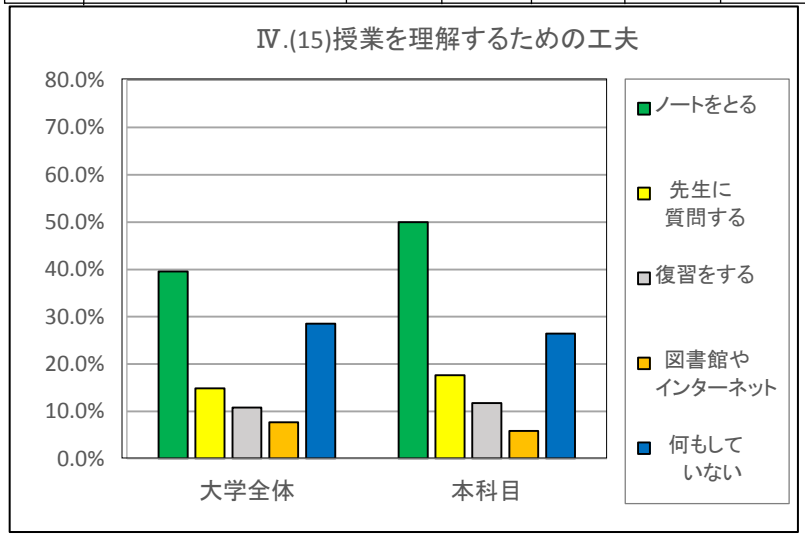
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.29	3.26
	Ⅰ.(2)	3.35	3.40
	Ⅰ.(3)	2.94	2.73
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	2.94	2.97
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.12	3.20
	Ⅱ.(8)	3.21	3.27
	Ⅱ.(9)	3.24	3.13
	Ⅱ.(10)	2.94	3.13
	Ⅱ.(11)	3.24	2.94
	Ⅱ.(12)	3.32	3.31
	Ⅱ.(13)	3.35	3.29
満足度	Ⅱ.(14)	3.32	3.23

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(15)	授業を理解するための工夫	50.0%	17.6%	11.8%	5.9%	26.5%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.20	3.13
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13)	3.17	3.15
総合的満足度 Ⅲ.(14)	3.32	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度　前期
時間割番号	23103
科目名	英会話Ⅰ
教員名	

①授業計画の達成度について

本授業は、実用的な英語表現・基礎英文法を中心に「聞く・話す・読む・書く」という総合的な英語コミュニケーション能力の育成を目的としている。受講生の理解度を確認しながら、講義要項の授業計画を達成するよう配慮していたため、指導側としては、本授業計画は達成できたと考えている。

授業アンケート結果を見ると、Ⅳ. 授業を理解するための工夫が、大学全体よりも高い数値である。英語は、自宅学習が大きなポイントともなるため、英語の勉強方法も身についた授業となった点において、授業目的を達成したと言える。

②授業の進め方について

毎授業にめあてを提示した上で、前半は英文法、後半は英語表現を使ったワークを取り入れる方法を取った。 英文法に関しては、全授業回で使用した英文や文法を発展させ、英語表現に関しては、様々なクラスメートと会話できるよう配慮した。

授業では、授業理解ノート作成（板書の写し、授業で理解できなかった点を自分で調べる等）を推進していた。加えて、英語をinputし、outputしながら、授業内容理解をするよう促していたが、机間巡視中に質問に答えるようにしていた点も、学生の理解に貢献したように思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

本授業アンケートでは数値は下がっているものの、以前回収した授業改善アンケートでは、難易度についての不安が見られた。本来ならば、英会話という科目特性上、英語で説明する場面を増やすべきであったが、文法説明に関しては、受講生の基礎英語力向上と受講生の理解を促進するため、日本語を使用せざるをえなかった。今後は、授業難度を下げつつ、英語で理解できる授業を目指していくべきだと考えている。

奈良学園大学